

contents

特集 デートDV防止啓発講座 in 聖路加国際大学

「デートDV」を知る

講演 NPO 法人レジリエンス 代表 中島幸子さん 2p

「ブーケ21」の講座に参加してみませんか！ 参加者インタビュー 6p

講座の前のひと時、ピアノ演奏をしています！ 演奏者インタビュー 6p

Bouquet Information 講座・イベントの報告 7p

TOPICS 中央区男女共同参画講座 男の料理教室「オレのスパイス料理」 8p

中央区イクメン講座「パパもチャレンジ！ 離乳食づくり」 8p

ブーケ



Bouquet



No. 76
2015.3



デートDV 防止啓発講座 in 聖路加国際大学

「デートDV」を知る

婚姻関係にない恋人同士の間にかかる暴力をデートDVといいます。

「ブーケ21」では、11月22日(土)にNPO法人レジリエンス代表 中島幸子さんを講師にお迎えし、聖路加国際大学においてデートDV防止啓発講座を開催しました。学生を中心に100名を超える参加者が受講されました。

被害者を「☆さん」と呼ぶ

こんにちは。レジリエンスの中島です。

レジリエンスでは被害者という言葉を使いません。被害者と呼ばれて力を感じられる人は少ないと思いますので、私たちは被害者ではなく自ら輝ける力を持っている人として「☆さん」と呼んでいます。加害者のことは英語でバタラー (batterer) という言葉があり、頭文字を取って「Bさん」と呼びます。

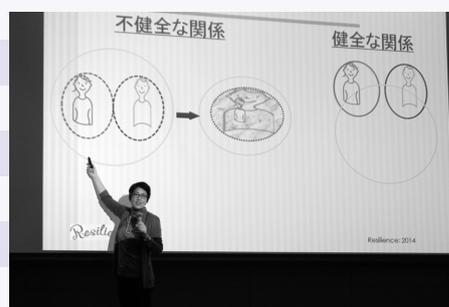
今日のテーマはデートDVですが、基本的な部分はデートDVに限定されたことではなく、いじめや虐待、パワハラなどにも関連するところが多くと捉えてください。共通点は人が人を傷つけるという

ことです。そのような関係性の中では、パワーとコントロールが必ず含まれているといえます。

パワーとコントロール、そして暴力

二人の関係性が健全であれば、そこには3つの要素があります。1つ目は対等であるということ。どちらが偉いということはありません。2つ目はお互いが尊重し合うということです。一人の人だけが尊重されるわけではありません。3つ目はその関係性が安全であるということ。安全でない関係性は、親子であろうと、仲間であろうと不健全です。

では、不健全な関係性の中で、この3つはどうなっているか、パワーとコントロールという視点で



見ていきます。パワーは力、権力の差です。不健全な関係性ではパワーは対等でなく上下関係にありBさんが偉い、☆さんが偉くないとされています。そしてその間にあるのがコントロール、支配です。

例えば一緒にテレビを見ているとすると、リモコンを持っているのはBさんで、好きなきときにチャンネルを替え好きなきときに消します。相手を尊重しません。健全な関係性では、「チャンネルを替えていい？」と尋ねたりします。尊重が現れる瞬間です。意見の差が生じて、譲り合うことができます。けれどもDVや虐待がある家の中では、他の人が「別の番組を見たい」と言ったら、Bさんがリモコンを投げつける、怒鳴る、殴る、無視する、そういうことが起こり得ま

す。これらの行為が暴力です。「別の番組を見たい」と言っただけで暴力をふるわれればその人はもう言わなくなりません。言わない方が安全であると学ぶのです。そうやって支配が強化されていきます。意見の差が危ないことにつながる関係性は健全でないということです。

世の中で☆さんたちは弱い人、自分の意見が言えない人、優柔不断な人、という見方をされます。けれども、☆さんが弱いからではなく、暴力をふるうBさんが存在するからデートDVや虐待が発生するのです。例えばこの会場で私だけが銃を持っていたら皆さんは私の言うことを聞くようになりません。別に弱いからではありません。暴力は相手を支配するときに最も簡単で効果的な方法なのです。

暴力を正当化する理由はない

では、Bさんはどういう人たちか。多くは二面性を持ち、特定の人たちの前では素晴らしくいい人であったりします。そのBさんが例えば「彼女を殴ったのは悪いし反省している。でも彼女がまた遅刻をしてきたので、ついカッとして」と言っただけです。多くの人は暴力はいけないと思っただけで、遅刻



中島幸子さん

NPO 法人レジリエンス代表

中島幸子さん (なかじまさちこ)

NPO 法人レジリエンス代表。ソーシャルワーカー、米国法学博士、大学非常勤講師。DV被害の経験がきっかけとなり勉強を始め、2003年に女性のための「こころのcare 講座」をスタート、同年「レジリエンス」結成。同年、米国ソーシャルワーク修士号取得。各地で毎年数多くの講演を行う。主な著書に「マイ・レジリエンス・トラウマとともに生きる」(梨の木舎、2013年)、「傷ついたあなたへ〈1〉〈2〉」(梨の木舎、2005、2010) などがある。

も1つの問題と捉えます。でもどんな問題も暴力以外の解決手段が必ずあります。相手にも非がある」と話したときに「それは別の問題です、暴力以外の解決手段がなかったのですか」と言える対応が必要なのです。Bさんの「仕方なく殴った」「お前が俺を怒らせた」というセリフも言い訳でしかありません。暴力を正当化する理由はないというのを徹底していかなければ、デートDVも虐待も解決していきません。

暴力の形

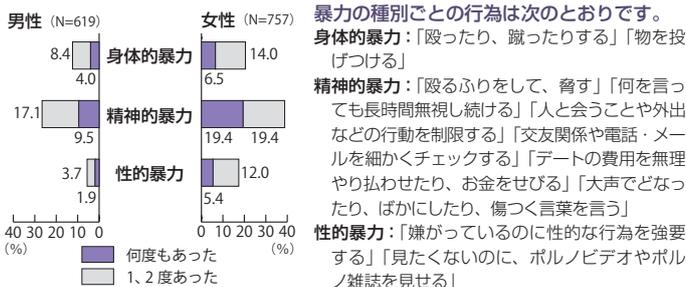
次に暴力についてですが、ここでは5つに分けてお話しします。最初に思い浮かぶのは身体的暴力だと思います。メディアで取り上げられるほとんどが命に関わる身体的暴力だからです。でもそれは氷山の一角で、殴る蹴るだけでなく、食べ物や飲み物を渡さない、眠らせない、監禁するなど、傷跡が見えないものもあります。性暴力はどうでしょう。デートDVでの性暴力は見知らぬ人から

のレイプなどとは違います。付き合っている彼の家に行きそこで襲われたとしても、世の中では性暴力、性犯罪とはみなされませんが、自分が傷ついたのであれば、それは傷つけられたからであり、暴力をふるわれたからです。私の体は私のものであり、付き合ったからといって相手のものではないのです。避妊に協力しないというのも性暴力の一つです。経済的暴力というのは、デート代をいつも支払われる、バイト代を巻き上げられるなどがあります

が、もう一つお金に対しての激しいチェックがあります。買い物について常に激しいチェックを受けていると、☆さんは何かを買おうと思つた瞬間、「(相手に) 何も言われなかな、大丈夫かな」と安全性をはかります。Bさんがそばにいないでも支配を感じ続けるのです。精神的暴力というのは、傷跡が心に残ります。恐怖や支配、束縛、無視などさまざまです。最近ではデジタル暴力があります。ネット上の書き込みやGPS機能を利用した監視などです。ま

図表1 被害経験の有無(暴力の種別)(性別)

暴力の種別ごとに被害経験の有無をみると、いずれも女性が男性を上回っています。



暴力の種別ごとの行為は次のとおりです。
身体的暴力：「殴ったり、蹴ったりする」「物を投げつける」
精神的暴力：「殴るふりをして、脅す」「何を言っても長時間無視し続ける」「人と会うことや外出などの行動を制限する」「交友関係や電話・メールを細かくチェックする」「デートの費用を無理やり払わせたり、お金をせびる」「大声でどなり、ばかにしたり、傷つく言葉を言う」
性的暴力：「嫌がっているのに性的な行為を強要する」「見たくないのに、ポルノビデオやポルノ雑誌を見る」

図表2 被害を受けた際の対応(被害経験のある人、性別)

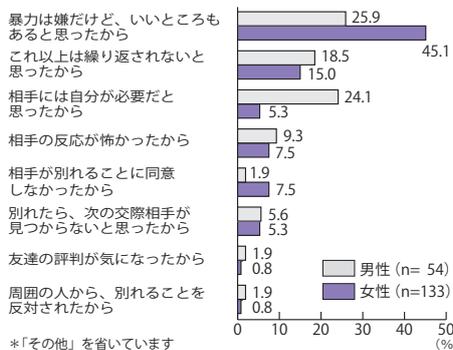
男性は「別れたい(別れよう)とは思わなかった」が最も多く、女性は「別れたい(別れよう)と思ったが、別れなかった」が最も多くなっています。



図表3 別れなかった理由

(「別れたい(別れよう)と思ったが、別れなかった」人、性別)

男女ともに「暴力は嫌だけど、いいところもあると思ったから」が最も多くなっています。男性は「相手には自分が必要だと思ったから」も2割を超えています。



*「その他」を省いています

資料：「若年層における交際相手からの暴力に関する調査報告書」(東京都生活文化局 平成25年2月)

た、別れようとした相手の裸の画像を公開したり公開すると脅したりする、リベンジポルノといわれることも発生しています。人を支配することが容易にできるデジタル暴力は今後増えていくと思います。

暴力とトラウマ

さて、今日は多くの人が受講していますので、心に大きな傷を抱えた人がこの中に含まれていることを前提としてお話ししています。もし誰にも言えないでいる人がいたら、言ってもいいと思える自分のタイミングを大切にしてください。自分一人で抱えるには重たすぎる経験というのは残念ながら世の中にはたくさんあります。暴力は、どの暴力でもトラウマにつながる可能性を持っています。☆さんがBさんと別れても人生が楽にならないのはトラウマが残っているからです。それを少しずつ外に出して負担を軽減させていくために、カウンセリングやアートセラピー、ピアサポートグループというのがあります。ピアというのは仲間という意味で、☆さんたちが集まって体験を話す、聞くという場です。

共感と理解

友だちから相談されたときに丁

寧に聞くことは大切なことですが、聞いている側も辛くなる可能性が高いので、専門的な知識を持つている人につなげることが大切です。本やウェブサイトを、講座など情報を提示することもよいでしょう。

また、「なぜ別れないの」と思ってもかもしれませんが、☆さんにとつて別れることは簡単なことではありません。例えば親密な関係性の中で暴力が発生すると、☆さんはBさんに睨まれるだけで緊張しますが、ニコツとされた瞬間に安堵を感じます。それを繰り返して経験させられると特殊な結びつきができます。このため、別れようとしても何度も戻る☆さんがたくさんいます。サポートするときに、戻れる可能性が高いということを知っておいた方がよいでしょう。

希望を失いかけている人をサポートするとき大切なのは、共感したり理解しようとすることです。☆さんは、痛みを打ち明けたときに「そうだったんだね」と受け止めてくれる人を探していきたくします。

今日は最後までお聞きいただきありがとうございました。デートDVに限らず、いろいろな関係において相手を尊重し、そして自分を大切にすることを築いてほしいと思います。

DVを学ぶ機会は過去に2回ありましたが、当事者の方の講義を聞くのは初めてでした。

DVは健全なパートナーシップが崩れたときに起こる、というお話がありましたが、それがDVであるかどうかは暴力を受けた側の主観に左右される（本人がDVだと気付かない場合がある）こと、暴力を受けた側は「自分のせいで相手を怒らせた」と特有の感情を持つ可能性があることの2点から、自分が考えている以上にDVは潜在化しやすい問題なのだと感じました。

近年はデジタル暴力など暴力の範囲が広まり、自分がいつDVを受ける側になるかわからないという状況の中で、自分の感情を大切に（自分が「嫌だ」「変だ」と思う感情を押し殺さない）こと、そして少しでも「嫌だ」「変だ」と自分が感じるあるいは周りにそういう人がいたら、一人で抱え込むのではなく支援機関に相談してつなげることの2点が、自身またはDVを受けた人を守るために必要な心構えではないかと思っています。

最後に、将来助産師を目指していますが、出産体験がDVの体験をフラッシュバックさせる可能性もあるという話も聞いたので、助産師としてどんなアプローチができるのか、近いうちに学びたいと思います。（YH）

DVの被害者にとっても、被害者を支えるべき将来の看護職としても、非常に分かりやすく、DVを身近な問題として捉えることができた講義でした。「この（講義を聴いている学生の）中に、心の傷を抱えた人がいることを前提として話しています」と、中島先生が講義の前半で前置きをしていらっしゃったことが印象的でした。被害者である人は自分の傷と向き合い、被害者である自分にまだ気づけていない人は胸の引っかかりを見つめなおし、被害者を救いたいと考えている人は自分のすぐ隣にその人がいるかもしれないということに気付くきっかけを得ることができたと思います。

DVについて授業で学んでいても、実際にどのようなことが起きているのかを具体的に想像できない学生が多くいると思います。誰もがDVの被害者になる可能性があること、被害者に非はないこと、自分が被害者であることを自分で受け入れること・人に打ち明けることがとても大変であることを、中島先生の言葉を通じて明確なイメージとしてつかむことができ、とても勉強になりました。

被害者の方を支える存在となれるよう、自分自身も健全な関係を築くことができるよう、今後に活かしていきたいと思っています。（MH）

中島さんのお話を伺っている間、私は何度もキックする瞬間がありました。中島さんのおっしゃる、☆さんに心当たりがあったからです。

私の母は身体的な暴力を受けてはいませんが、いつも父の顔色をうかがい、どんなに父が身勝手にふるまっても“惚れた弱み”として黙認していました。当時私は幼く、母に対して「なぜ離れないのか、別れればいいじゃないか。」とっていました。中島さんのお話を伺ってから、母に対して何かもつてきたのではないかと思わずにいられません。

私は今大学生として、看護を学んでいます。将来、たくさんのお患者さんに関わり、その中にも☆さんはきっといることでしょう。母にはできなかった、寄り添って話を聞くことや、「あなたが弱いのではないよ。私はあなたの力にいつでもなれるよ。」と、☆さんたちに伝えることができたかと考えています。特に私は今、若い世代への性教育に興味があり、性教育と同時に、パートナーを尊重し合うことの大切さも伝えられたらと思います。

お話を伺って、DVについてもっと皆が関心を持ち、正しい理解が必要だと感じました。私が今できることは何かを考えています。このような考える機会を与えてくださって、中島さんには大変感謝、感激しております。（YY）

デートDV(DV)相談窓口

相談できずに、悩みを抱え込んでいませんか？
ひとりで悩まずに相談ください。相談無料秘密厳守

中央区の相談窓口

●「ブーケ21」女性相談（女性センター）

☎ 03-5543-0653

面談相談（予約制）

毎月第1・5水曜日、第4火曜日 10時～16時

毎月第2火曜日、第3水曜日 15時30分～20時30分

※祝日・年末年始を除く ※託児付(要予約)

電話相談（予約不要）

毎週月曜日 10時～16時

※祝日・年末年始を除く

●女性相談（子育て支援課） ☎ 03-3546-5350

土日・祝日・年末年始を除く 毎日 9時～17時

他の相談窓口

●東京ウィメンズプラザ

女性用 ☎ 03-5467-2455

年末年始を除く 毎日 9時～21時

男性用

☎ 03-3400-5313

毎週月曜日・水曜日 17時～20時

※祝日・年始年末を除く

●東京都女性相談センター ☎ 03-5261-3110

土日・祝日・年末年始を除く 毎日 9時～20時

●警視庁総合相談センター

☎ 03-3501-0110 または #9110

土日・祝日・年末年始を除く 毎日

8時30分～17時15分

●全国共通 DV ホットライン ☎ 0120-956-080

日・祝日・年末年始を除く 毎日 10時～15時

夜間・緊急

●警察（事件発生時） ☎ 110番（24時間）

●東京都女性相談センター

☎ 03-5261-3911（夜間・休日のみ）

支配があるかのチェックリスト

目に見えない支配や権力がある関係かどうかをチェックしてみましょう。チェックリストにいくつかあてはまる場合は、力の差があり、相手からコントロールされている関係の可能性があります。

- パートナーの言うことは絶対だ
- 自分の希望をパートナーに伝えるのはとてもエネルギーがいる
- パートナーが帰ってくると緊張する
- パートナーを恐れている
- パートナーがいる前で電話をしたくない
- パートナーを待たせることはできないと思っている
- 自分がどう感じるかよりもパートナーが怒らないかが基準になっている
- 予定より遅く帰るなんてできないと思っている
- パートナーの言動に意見できないと思っている
- たとえ間違っていると思っても、パートナーに同調しなくてはならない
- パートナーに自分の本音は絶対に言えない
- パートナーが怒りだすと、なんとかなだめようとしてしまう
- パートナーが機嫌が良い状態であるためにはどんなことでもすると思う
- どんなに自分が楽しんでいてもパートナーの機嫌が悪くなるともう楽しむことはできない
- パートナーのセックスの要求は断れないと感じている
- 自分のほしいものでもパートナーが良い顔をしなければ買えない
- 子どもがパートナーの気に入らないことをするとすごくあせる
- パートナーについたうそがばれるのが怖くてしょうがない

『傷ついたあなたへ～わたしがわたしを大切にすること～』
レジリエンス著（梨の木舎）より一部抜粋

デートDVの講座を聞いて——受講者の感想

「DVによって傷ついた方に対して『被害者』という言葉は使いません。DVによって傷ついた人は「可哀想な人」ではなく、本来その方が持っている力で自ら輝いていける存在であるため『☆(ほし)さん』と私たちは呼んでいます。」という中島さんの言葉を聞いて、私は自分がDVについて誤った考え方をしていることが分かった。

私はこれまでDVについて深く考えたことはなかった。自分にとっては遠い話のことであってほしい、と心のどこかで思っていたのかもしれない。中島さんのお話を聞いて、☆さんの置かれた状況を想像したときは正直に言ってショックを受けた。しかし、DVは誰にとっても身近なことであり、☆さん自身がDVを受けやすいような特性を持っているわけではなく誰もが☆さんになり得ることが分かった。また、☆さんが安全に暮らすためには周囲の人の存在が重要であり、☆さんの思いを受け止め、境界線を引きながらも理解や共感を通してサポートをすること、また☆さんを相談できる専門機関に繋げることが重要であることを学んだ。

DVについて、今後も知ることや止めずにいたい。社会で起こっている出来事に対し、もっと関心を持って過ごしたいと今回の講義を通して思った。(RY)

私は現在助産師を目指して大学院に通っており、講義でDVについて学んだことがきっかけで、今回の講義に興味を持ち参加しました。実際にDVを受けた方の生の声を聴くことができ、たくさん学びを得ることができました。

中島さんのお話のなかで最も印象に残ったのは、「DVを受ける人は決して弱いわけではない」という言葉でした。その言葉を聞いたときに、私はそれまでDVをする方だけでなくされる方にも問題がある、という身勝手な思い込みを持っていたことに気が付きました。「もし、突然私が銃を出してあなたに突きついたら、あなたは私の言うことを聞くでしょう」という中島さんの話を聞き、まさにその通りであると痛感しました。DVは決して他人事ではなく、誰にでも起こりうる身近なものであることがとてもよく分かりました。

また、DVは恋人間や配偶者間だけではなく、親子間などさまざまな対人関係の中に生じるものだという事も知りました。将来、妊産婦やその家族と関わるなかで、助産師としてどんなケアができるのか、どうしたらDVを未然に防ぐことができるのかについて考えさせられました。大変貴重なお話ありがとうございました。(S)

これまでニュースなどでDVや暴力の事件を目にした際、「暴力をふるう方が絶対的に悪いが、被害者にもどこか落ち度があったのだろう」と思う自分がいました。しかし「問題の解決方法として暴力以外の手段は必ずある」との言葉に、このような考え方は不適切であると反省しました。「仕方なく暴力を使った」などという言い訳が成立するわけもなく、暴力を正当化する理由には存在しないのだと痛切に感じました。

新たに学んだことは、「誰にでも被害者・加害者になる可能性がある」ということです。自分が意図していなくても自分の行動・言動・態度によって相手が傷ついていけば、それは立派な暴力であり自分は加害者となります。逆に相手によって傷ついたと感じたときは、被害者となります。

「暴力」「被害者・加害者」と聞くと、どこか自分とは関係のないことのように感じますが、本講義でのさまざまな事例を通して、このようなことは日常生活における他者との関係の中に普通に存在しているのだと学びました。デートDVなどの問題は身近に存在していると学んだ今、他者と健全な関係性を築ける、また、当事者に会ったときには手を差し伸べられる人間になりたいと思いました。(O)